

韓国環境部プレスリリース 2019年12月14日付

## 京畿道漣川郡と江原道鉄原郡の野生いのしし捕獲個体・弊死体からASFウイルス検出（野生いのしし45-46例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1140055&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

△漣川（ヨンチョン）は14例目、鉄原（チョルウォン）は16例目、全国で計46例  
▷農食品部10km防疫対内農家の初動防疫措置完了

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョンゲン）新西面（シンソミョン）で捕獲された野生いのししと鉄原郡（チョルウォンゲン）葛末邑（カルマルウプ）で発見された弊死体でそれぞれASFウイルスが検出されたと12月14日明らかにした。

漣川郡新西面の野生いのししは12月11日午後10時頃、林野で漣川郡有害鳥獣被害防止団の夜間巡回査察中に銃器で捕獲された。鉄原郡葛末邑の弊死体は12月12日午後1時頃、山の中平地で環境部・山林庁合同捜索チームによって発見された。

漣川郡と鉄原郡の2つの地点は、いずれも民間制限線の南側であり、民間制限線からそれぞれ270mおよび2.7km離れた地点だった。

漣川郡と鉄原郡は野生いのししASF標準行動指針により現場を消毒して死体を処理した。

国立環境科学院は12月13日それぞれの試料でASFウイルス陽性の確定診断結果を関係機関に通知した。これで漣川で14件、鉄原で16件の野生いのししASF陽性の確定診断となり、全国的には46件になった。

鉄原郡葛末邑の野生いのしし発生地点から10km以内では、52農家(鉄原郡46戸、抱川(ポチョン)6戸)が約123000頭を飼養している\*。

\* 3km以内で1戸が約2,700頭飼養

農食品部は野生いのししでASFが確認された後、速やかに発生地点から10km以内の52戸の農家と、江原（カンウォン）全体の養豚農家に対してテキストメッセージを通じ、ASFウイルス検出事例があったことを知らせ、農場内の消毒、フェンスなど遮断防疫施設点検を

実施するように措置した。

52 農家中 26 戸は 40,41 例目の野生いのしし発生地点 10km 内にも含まれていた。

また、鉄原郡と抱川市（ポチョンシ）には陽性個体発見地点から 10km 内の農家に対する予察を強化して、移動制限措置と臨床観察および精密検査、農家進入路・周辺道路・近隣河川などに対する集中消毒など防疫措置を実施するようにした。

\*40,41 例目の鉄原での野生いのししにおける ASF 発生(12.5/12.6)により、鉄原、抱川内すべての農場に対し、農場周りの生石灰散布、野生いのしし忌避剤設置などの防疫措置を実施中

農食品部は、12.14 日(土)、鉄原郡と抱川市に点検班 4 人(農食品部 2・検疫本部 2)を派遣して地域内農家に対する消毒など防疫措置が適切に行われているか確認する計画である。

環境部 ASF 総合状況室総括チーム長は、"捕獲個体や弊死体は全て広域フェンスの中で発見されたが、2 次フェンスが設置されていない地点だった。"として、"迅速なフェンス設置とともに周辺地域に対する弊死体搜索を強化する計画だ"と話した。

以上